

令和4年度

藍住北小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○教員一人一人の授業力アップを目指し、個人差に対応した指導方法の工夫
 ○「主体的・対話的で深い学び」のための教材・教具として、ICTを活用した授業実践やオンラインでの授業のあり方について

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 野崎 真紀	委員	校長・総括 後藤 成人	教務主任 友成 幸恵
		教頭・総括補佐 岡 佳子	3学年主任 古林 博子
		1学年主任 藤本 美恵	5学年主任 植田 彩貴
		4学年主任 森本 真紀	少人数指導 近藤 恭弘
		6学年主任 蘆住 聡子	TT担当 有田 桃子
		特別支援担当 坂東 裕一	

校長
後藤 成人

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的に学習に取り組む児童・生徒を育むための指導方法の工夫改善

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

各学年で話し合いの機会をもつようにするとともに、知識・技能の習得については学期ごとに確認テストを実施する。研究授業の際には、本校の課題となる点について話し合うようにする。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「学びタイム」等での継続的な取り組みで、漢字の読み書きや四則計算などについては、ある程度の定着が見られる。 ●全体的に基礎・基本の定着は向上しているが、個人差が大きい。正しい内容を聞き取ったり、読み取ったりすることが苦手な児童が多い。	①当該学年での基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②日常生活で、自分の考えや思いを言葉を選んで話したり、分かりやすく文章を書いたりできる。	①「学びタイム」(朝の活動)でドリル学習等を継続的に行い、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ②ノートやワークをチェックする機会を定期的に設ける。 ③朝の会などでのスピーチや日記等で話す・書く活動の機会をとる。 ④低・中学年では少人数担当教員がT、TTにより児童のつまずきに対応する。 ⑤高学年では、授業交換や専科教員による専科指導を取り入れ、専門性を高めるとともに、児童の興味関心を高める。 ⑥5・6年生の算数科では習熟度別指導を取り入れ、得意な子も苦手な子もそれぞれの習熟度にあった学習環境を整え、力を伸ばす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直に自分の思いを他者に伝えたいという気持ちをもっている児童が多い。ペアやグループ学習では、自分の思いや考えを発言でき、意見の交流で考えを深めることができる。 ●課題や目的に応じて聞き取ったり話したりする力に課題がある。授業中に発言する児童に偏りがある。また、自分の思いを伝える語彙が少なかったり、自分の考えを分かりやすく発表したりするのが苦手であるため、十分に伝えきれないことがある。	①場に応じた話し方や声の大きさで自分の考えを進んで話すことができる。 ②要点を押さえ、話を最後まで聞いたり、読み取ったりすることができる。 ③自分の考えをまとめ、相手に伝わるように根拠をもって説明することができる。	①授業の中で、自分の思いや考えを説明する場面を確保する。 ②ペア・グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の言葉で考えや思いを伝える場を設定する。 ③ICTを活用し、聞き方や話し方の例を示したり、注目すべき点を確認したりする。 ④大学連携強化、学校力向上推進校事業やメンター制を活用し、初任者や講師などの若年教員の指導力を伸ばしていく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習の初めの準備やチャイム着席などは定着してきた。新しく学ぶことに対して興味関心が高い。与えられた課題や学習には、真面目に落ち着いて取り組み、やり遂げることができる。 ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手である。家庭での読書時間が少ない。少し難易度が上がると、諦めてしまいがちになったり集中が続かなくなったりする傾向がある。	①学習に取り組む基本姿勢が定着している。 ②読書や家庭学習に進んで取り組んでいる。 ③自分から進んで学習に取り組もうとする態度を身に付けている。 ④自分の課題に対して諦めずに最後までやり遂げることができる。	①授業準備や机上整理をすませ、チャイムと同時にスムーズに授業を開始できるようにSWPBSを用いて児童の主体性を高め、授業に取り組む態度を学校全体で定着させる。 ②朝の読書、週末の家族読書等で読書の時間をとる。 ③ICTを活用し、興味関心をもたせ、課題解決へ取り組む意欲を高める。 ④できたことを肯定的に評価し、意欲付けをするとともに、家庭学習の取り組み方を具体的に示し手本となる事例を子どもや家庭に知らせる。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

